東京都立墨東病院麻酔科

専門研修プログラム冊子

問い合わせ先
東京都立墨東病院 麻酔科　後藤尚也
〒130－8575　東京都墨田区江東橋 4-23-15
TEL　03-3633-6151
E-mail　anesnaoya@gmail.com

東京都立墨東病院麻酔科専門研修プログラム

1. 専門医制度の理念と専門医の使命

① 麻酔科専門医制度の理念

麻酔科専門医制度は，周術期の患者の生体管理を中心としながら，救急医療や集中治療における生体管理，種々の疾病および手術を起因とする疼痛・緩和医療などの領域において，患者の命を守り，安全で快適な医療を提供できる麻酔科専門医を育成することで，国民の健康・福祉の増進に貢献する．

② 麻酔科専門医の使命

麻酔科学とは，人間が生存し続けるために必要な呼吸器・循環器等の諸条件を整え，生体の侵襲行為である手術が可能なように管理する生体管理医学である．麻酔科専門医は，国民が安心して手術を受けられるように，手術中の麻酔管理のみならず，術前・術中・術後の患者の全身状態を良好に維持・管理するために細心の注意を払って診療を行う，患者の安全の最後の砦となる全身管理のスペシャリストである．同時に，関連分野である集中治療や緩和医療，ペインクリニック，救急医療の分野でも，生体管理学の知識と患者の全身管理の技能を生かし，国民のニーズに応じた高度医療を安全に提供する役割を担う．

2. 専門研修プログラムの概要と特徴

概要

東京都立墨東病院は区東部の急性期を中心とした基幹型臨床研修病院である。麻酔科管理症例は救急症例、重症症例が多く、研修では日常的に多様な症例を経験する。また、無痛分娩、ペインクリニック診療も行っており、専門医のもと、恵まれた環境で学ぶことが出来る。

また、都立病院が一体となって提供する東京医師アカデミーによる研修の他、順天堂大学、松戸市立総合医療センター、イムス葛飾ハートセンターなど、専門性の高い研修施設とも連携しており、臨床麻酔のスペシャリストを育成することを大切にしている。

院内の集中治療部、救命救急センターでの研修も可能であり、これら幅広いサブスペシャリティにおける専門医資格を視野に入れた研修、相談を院内で行うことが出来る。

特徴

当院は東京都区東部地域（人口約180万人）の医療最後の砦として存在する急性期を中心とした急性期型病院であり、高度救命救急センター、総合周産期母子医療センターを有している。

高度救命救急センターは都内４施設しか存在せず、当院は唯一、非教育施設で認定を受けている。日本外傷学会外傷診療施設機能評価で最高ランクであるSSS認定を持つ、都内でも有数の大規模施設である。症例は緊急性、重症度が高く、これらの症例に対して柔軟に対応する麻酔スキルを身につけることができる。

当院の総合周産期母子医療センターは、東京都東部ブロックの周産期基幹病院であり、母体搬送受入件数が非常に多い施設である。産科麻酔に精通した指導医が常勤し、重症産科救急症例、無痛分娩麻酔を恵まれた環境で研修できる。

また、東京都脳卒中急性期医療機関、東京都CCUネットワーク加盟施設、地域がん診療連携拠点病院でもあり、経験できる症例は多岐にわたる。

麻酔科管理手術症例は年間約4700件。麻酔科指導医8名、専門医3名が研修指導に当たっている。専攻医（特に1，2年目）に対しては必ず専門医、指導医が指導しており、手厚い指導を心掛けるとともに、専攻医を守ることも大切にしている。当直は2人体制で、必ず麻酔科専門医が院内に常駐している。当直明けは休み、その他の条件においても「無理せず勤め続けられる勤務態勢」を整えている。

先駆的な臨床的取り組みにも積極的にも注力している。例えば、単孔式胸腔鏡下手術(Uniportal VATS)を日本でいち早く導入した呼吸器外科と連携し、術後早期回復プログラム(ERAS)を導入した１泊２日VATS入院に取り組んでいる。また、呼吸器外科と共同で低侵襲手術研修を目的とした海外研修も希望者は参加が可能である。

他施設との連携も充実している。当プログラムは「東京医師アカデミー」の麻酔科コースの一部門である。東京医師アカデミーとは、都立病院が一体となって提供する後期臨床研修システムのことであり、都立病院総病床数7200床のスケールメリットを最大限に活用した病院間連携を行っている。また、順天堂大学、松戸市立総合医療センター、イムス葛飾ハートセンターなど、専門性の高い研修施設とも連携している。順天堂大学は附属病院全体で年間2万件以上の麻酔管理症例を有し圧倒的症例数、特殊症例を経験できる。また、高い専門知識を持つ指導医が多数在籍し、臨床研究の指導も受けることができる。松戸市立総合医療センターは、成人・小児ともに救命センターを持つ地域の中核総合病院であると同時に、日本小児総合医療施設協議会認定を受けた小児総合医療施設を有する。新生児・乳児の周術期医療を国内外小児医療専門施設、救急・集中治療専門施設経験者から直接、指導を受ることが出来る。イムス葛飾ハートセンターは年間500件以上の全身麻酔心臓血管外科手術が施行される。成人心臓施術麻酔術中管理、術中経食道心エコーの技術を十分に修得することを目標とし、経験豊富な麻酔科医が指導を行っている。

また当院は心臓血管麻酔、ペインクリニック、緩和医療の認定研修施設でもある。院内他診療科とも親密に連携しており、希望があれば集中治療科、救命救急センターの研修も可能。これらの幅広いサブスペシャリティ専門医資格の取得を視野に入れた研修、相談を院内で行うことができる。

3. 専門研修プログラムの運営方針

- 研修内容・進行状況に配慮して，プログラムに所属する全ての専攻医が経験目標に必要な特殊麻酔症例数を達成できるように，ローテーションを構築する.
- 研修の前半2年間のうち1.5年間，後半2年間のうち1年間は，責任基幹施設で研修を行う.
- 松戸市立総合医療センターでは，原則2年次に研修を行う.
- ４年目の残り半年間は専攻医のニーズに応じて、研修内容を選択できる。
- 順天堂大学附属浦安病院、順天堂大学附属静岡病院、越谷市立病院での研修を可能とし、東京都外での勤務を経験できる.

研修実施計画例

年間ローテーション表

	1年目	2年目	３年目	４年目
A	墨東病院	松戸市立総合医療センター（小児麻酔） 墨東病院	墨東病院 駒込病院（緩和ケア）	墨東病院
B	墨東病院	墨東病院 松戸市立総合医療センター（小児麻酔）	墨東病院 順天堂大学病院 （臓器移植医療）	墨東病院 葛飾ハートセンター （心臓麻酔）

4. 研修施設の指導体制

①　専門研修基幹施設

東京都立墨東病院

研修プログラム統括責任者： 後藤 尚也

専門研修指導医：後藤 尚也 （麻酔）
永迫 奈巳 （麻酔）
河村 尚人 （麻酔 心臓血管麻酔 ペインクリニック）
平野 敦子 （麻酔 産科麻酔 ペインクリニック）
吉村 敦 （麻酔 ペインクリニック）
櫻井 ともえ（麻酔 小児麻酔）
菊池 暢子 （麻酔 ペインクリニック）
桐野 若葉 （麻酔）

専門医：近藤 日向子（麻酔）
山谷 直大 （麻酔）
廣松　大樹（麻酔）

麻酔科認定病院番号 ２６

東京都立墨東病院は東京都東部地域（人口約180万人）の医療における最後の砦として存在する急性期を中心とした基幹型臨床研修病院です。都内最大規模の高度救命救急センター（都内４施設、当院は都内では唯一の非医育機関での認定)、総合周産期母子医療センター（当院の該当するスーパー総合周産期センターは都内６施設のみ、同施設内で母体搬送受入件数都内最多）を有します。また、東京都脳卒中急性期医療機関、東京都CCUネットワーク加盟施設、地域がん診療連携拠点病院でもあり、経験できる症例は多岐にわたります。

麻酔科管理手術症例は年間約4700件、緊急手術症例が多く救急症例、重症症例の麻酔管理を日常的に経験出来ます。また、東京都東部ブロックの周産期基幹病院であり、産科麻酔に精通した指導医が常勤し、重症産科救急症例、無痛分娩麻酔を恵まれた環境で研修できます。

先駆的な臨床的取り組みにも積極的に力を入れております。例えば、単孔式胸腔鏡下手術(Uniportal VATS)を日本でいち早く導入した呼吸器外科と連携し、術後早期回復プログラム(ERAS)を導入した１泊２日VATS入院に取り組んでおります。また、呼吸器外科と共同で低侵襲手術研修を目的とした海外研修も希望者は参加できます。

心臓血管麻酔、ペインクリニック、緩和医療の認定研修施設でもあります。院内他診療科とも親密に連携しており、希望があれば集中治療科、救命救急センターの研修

も可能です。これらの幅広いサブスペシャリティ専門医資格の取得を視野に入れた研修が行えます。

施設認定実績
・日本ペインクリニック学会指定研修施設
・日本緩和医療学会認定研修施設
・日本集中治療医学会専門研修施設
・日本救急医学会救急科専門医指定施設
・日本心臓血管麻酔学会心臓血管麻酔専門医認定施設
・日本集中治療医学会専門研修施設
・日本救急医学会救急科専門医指定施設
・日本心臓血管麻酔学会心臓血管麻酔専門医認定施設

② 専門研修連携施設

１：東京都立小児総合医療センター（以下，都立小児総合医療センター）

研修実施責任者：		西部　伸一	
専門研修指導医：		西部　伸一	（小児麻酔）
		山本　信一	（小児麻酔）
		簑島　梨恵	（小児麻酔）
		伊藤　紘子	（小児麻酔）
		箱根　雅子	（小児麻酔）
		佐藤　慎	（小児麻酔）
		千田雄太郎	（小児麻酔）
専門医	：	福島　達郎	（小児麻酔）
		和田　涼子	（小児麻酔）

認定病院番号：1468

特徴：地域における小児医療の中心施設であり、治療が困難な高度専門医療、救命救急医療、こころの診療を提供している。年間麻酔管理件数が 4000 件以上と症例数が豊富で、一般的な小児麻酔のトレーニングに加え、新生児麻酔、心臓麻酔、気管形成術の麻酔などの研修が行える。また、積極的に区域麻酔を実施しており、超音波エコーガイド下神経ブロックを指導する体制も整っている。2019 年度より心臓血管麻酔専門医認定施設となっている。

※専門研修指導医の要件
当該施設で週 3 日以上麻酔科関連業務に従事していること
以下の①～③のいずれかを満たすこと
① 麻酔科指導医の資格を保有していること
② 麻酔科専門医資格を 1 回以上更新していること
③ 麻酔科専門医を取得しており、麻酔科領域研修委員会の指定する FD 講習会を受講していること

２：東京都立駒込病院（以下，都立駒込病院）

研修プログラム統括責任者：佐藤　洋

専門研修指導医：佐藤　洋　（麻酔、ペインクリニック）
鈴木　尚生子（麻酔、ペインクリニック）
佐藤　和恵　（麻酔）
霜鳥　久　（麻酔）
浅野　峰子　（麻酔）
田島　明子　（麻酔、ペインクリニック）
北澤　みずほ（麻酔）
玉井　悠歩　（麻酔）

専門医：山田　亜沙美（麻酔）
大島　悠理　（麻酔）

麻酔科認定病院番号：146

特徴：

当院はがん専門病院であるため、がん患者の手術における術前評価および術中術後管理が研修の中心となります。外科系各科の高度専門手術に対して安全な麻酔管理ができる能力を育成します。ロボット支援手術（ダヴィンチ手術）を含めた内視鏡下手術、数科にまたがるコラボ再建手術などが多いのも特徴です。当院に診療科のない心臓血管外科、産科、小児外科などの麻酔管理は専門研修連携施設での研修を加えることで、専門医に必要な知識と経験を確実に得られるようにしています。また麻酔科の別側面であるペインクリニック研修や、他科研修（緩和ケア診療・救急診療）などを行える環境を整えています。

通常の全身麻酔・硬膜外麻酔・くも膜下脊髄麻酔・神経ブロックの症例経験に加え、下記の特殊麻酔を担当医として経験します。

・胸部外科手術の麻酔　呼吸器外科手術（胸腔鏡下及びロボット支援手術)、食道外科手術（含むロボット支援手術）など
・脳神経外科手術の麻酔　覚醒下脳腫瘍摘出術の麻酔管理など
・整形外科の麻酔　脊髄腫瘍、脊椎腫瘍（神経モニタリング）の麻酔管理など
・泌尿器科の麻酔　ミニマム創内視鏡手術、ロボット支援手術（ダヴィンチ手術）
・胃外科・大腸外科・肝胆膵外科・婦人科・耳鼻科・乳腺外科の手術も内視鏡手術やロボット支援手術（ダヴィンチ手術）で行っています。

３：東京都立広尾病院　（以下，都立広尾病院）

研修プログラム統括責任者：羽深　鎌一郎
専門研修指導医：羽深　鎌一郎（麻酔，救急医療）
寺﨑　美沙子（麻酔）
左近　奈央子（麻酔）
竹内　かおる（麻酔）
金子　裕子（麻酔，ペインクリニック）
亀田　和夏子（麻酔）
中川　健（麻酔）
玉井　三希子（麻酔）
何　はい琳（麻酔）
専門医：栗沢　航平（麻酔，集中治療）
田中　聡一郎（麻酔）
認定病院番号：213
特徴：救命救急センターを含む「東京ER・広尾」を運営し，地域中核病院である．救急医療のローテーションが可能である．

４：東京都立大塚病院（以下，都立大塚病院）

研修プログラム統括責任者：五十嵐　達
専門研修指導医：五十嵐　達（麻酔、区域麻酔）
伊藤　祥子（麻酔、区域麻酔）
佐々木　綾（麻酔、区域麻酔）
奥田　奈穂（麻酔、区域麻酔）
専門医：　大元　美季（麻酔）
麻酔科認定病院番号：472

特徴：総合周産期センターを併設しているため、一般的な麻酔管理に加えて産科麻酔や新生児・小児麻酔の十分な経験が可能である。ＩＣＵ研修を行える環境を整えているほか、日本区域麻酔学会指導医も在籍しており、神経ブロックについての専門的な知識と技術を学ぶことができる。また、無痛分娩を週5日行っており指導医のもとで研修することが可能である。看護師・薬剤師と共にAcute Pain Serviceの一員となり術後疼痛管理を学ぶことができる。なお当院に診療科のない心臓血管外科のほか、小児麻酔についても専門研修連携施設での研修を行い、より専門的な知識と経験を得られるようにしている。

５：東京都立多摩総合医療センター（以下、多摩総合医療センター）

研修実施責任者：山本　博俊

専門研修指導医：山本　博俊（麻酔，心臓血管麻酔）
渡邉　弘道（麻酔，神経ブロック）
臼田　岩男（麻酔，心臓血管麻酔）
阿部　修治（麻酔，ペインクリニック）
田辺　瀬良美（麻酔，産科麻酔）
松原　珠美（麻酔）
三井　裕介（麻酔）
北條　貴也（麻酔）
平林　清子（麻酔）
本田　亜季（麻酔）
稲吉　梨絵（麻酔）
滝島　千尋（麻酔，ペインクリニック）
小松　郁子（麻酔，神経ブロック，心臓血管麻酔）
神保　一平（麻酔，救急医学）
稲垣　翔子（麻酔，心臓血管麻酔）
江村　彩（麻酔）
土屋　愛依（麻酔）

専門医：原　有梨香（麻酔）
華岡　万貴（麻酔，心臓血管麻酔）
湯本　由志（麻酔）
奥富　由貴（麻酔）
重松　純子（麻酔）
堀場　容子（麻酔）

認定施設番号：89
特徴：多摩地域における唯一の総合的な医療機能を持つ都立病院として、11の重点医療を定めて高度専門医療を実施している。その中でも救急医療、がん医療、周産期医療を三本柱として重視している。多数の外科系診療科がまんべんなくそろっており、症例は豊富でバラエティに富んでいる。緊急手術特に産科の緊急手術が多いのが特徴である。

６：東京都立神経病院（以下，都立神経病院）
研修実施責任者：又吉宏昭
専門研修指導医：又吉宏昭（麻酔，ペインクリニック）
福田志朗（麻酔）
三宅奈苗（麻酔）

麻酔科認定病院番号：**1056**

特徴： 当院は脳脊髄機能外科を中心とした手術を行っている。てんかん手術、神経血管減圧術（三叉神経痛、顔面けいれんなど)、聴神経鞘腫、脊髄腫瘍、など脳神経モニタリングを行う手術の麻酔が多いことが特徴である。またペインクリニック研修、集中治療研修も行える環境を整えている。

７：東京都立荏原病院（以下，荏原病院）
東京都立荏原病院
研修プログラム統括責任者：加藤隆文
専門研修指導医
後藤 隆久（麻酔）
加藤 隆文（麻酔、ペインクリニック、緩和医療）
佐藤 千穂子（麻酔）
中島 愛 （麻酔）
大島雪乃（麻酔）
認定病院番号 792 特徴 ：当院は地域における急性期脳血管疾患医療の中核となっている。脳神経外科、産婦人科の他、11 の診療科に対応しており、偏りのない麻酔管理が経験できる。緊急手術も多く、救急診療における麻酔管理を学べる。
また当院では ICU 専任医師を麻酔科が毎日担っており、症例は限られるが集中治療管理を学べる。

当院では 2023 年度から無痛分娩を開始し、実施数は増加している。
小児外科、心臓血管外科、呼吸器外科などの当院で経験できない麻酔管理は専門研修連携施設で研修を行いより専門的な知識と経験を得られるようにしている。
当院は都内で 4 か所しかない第一種感染症指定医療機関の一つである。
当院は日本ペインクリニック学会の研修指定施設であり、学会専門医をとることが可能である。
また当院は日本緩和医療学会認定研修施設で、麻酔科も緩和ケアチームに参加しており緩和ケアを学べ、緩和医療学会専門医取得も可能である。

麻酔科管理症例数 2272 症例

８：東京都立豊島病院（以下，豊島病院）

研修実施責任者：吉川晶子　（麻酔、ペインクリニック）
専門研修指導医：吉川晶子　（麻酔、ペインクリニック）
小出博司（麻酔））
小川敬　（麻酔）
篠崎正彦（麻酔）
佐々木暢夫（麻酔）
専門医：大川　淳和（麻酔）

麻酔科認定病院番号：899
特徴：都北西部の地域医療を担う施設。救急医療、がん診療に重点をおき独立した緩和ケア病棟を持つ。24時間対応で麻酔科管理の無痛分娩をおこなっており、帝王切開等の産科麻酔症例数も多い。手術麻酔に加えてペインクリニックと緩和医療のローテーションも可能である。当院は日本ペインクリニック学会の研修指定施設であり、学会専門医をとることが可能である。
また、当院は第二種感染症指定医療機関であるため、数多くの新型コロナ感染症患者を受け入れて重症管理と手術対応を行った。そのため一般手術総数が一時減少したが現在は増加傾向である。ロボット支援下手術の導入、脊椎外科の新設により、今後も地域医療に果たす役割を担ってゆく。

９：東京都立東部地域病院（以下，東部地域病院）

研修実施責任者：浦里裕子

専門研修指導医：浦里裕子（麻酔）
齋藤　愛子（麻酔）
岸井　絢（麻酔）

麻酔科認定病院番号：659

特徴：当院では、がん治療をはじめとした高度専門医療から、二次救急、まで多岐にわたる豊富な症例を経験できる。さらに他院研修として、小児麻酔専門研修など専門的な知識と経験を得られるようにしている。また、麻酔科の別側面であるペインクリニック研修や、他科研修などを行える環境を整えている。
東部地域病院，関連研修施設の墨東病院、小児総合医療センター，駒込病院、広尾病院、大塚病院、多摩総合医療センター、神経病院、荏原病院、豊島病院、多摩北部医療センター、順天堂大学附属順天堂医院において，専攻医が整備指針に定められた麻酔科研修カリキュラムの到達目標を達成できる教育を提供し，十分な知識と技術を備えた麻酔科専門医を育成する。

１０：東京都立多摩北部医療センター
（以下、多摩北部医療センター）

研修実施責任者：河野麻理

専門研修指導医：河野麻理（麻酔）
竹内稚依（麻酔）
石橋桜子（麻酔、ペインクリニック）
横川すみれ（麻酔）
片平　舞（麻酔）

認定施設番号：437

特徴：地域医療支援病院である。当院は前身の「多摩老人医療センター」時代から長年にわたって培ってきた高齢者医療の経験があり、平成 17 年に「多摩北部医療センター」となり対象年齢が小児まで拡大してからも、依然として高齢者の症例が数多くある。平成 18 年に地域医療支援病院に認定、さらに東京都指定 2 次救急医療機関に指定されており、休日、夜間の救急医療にも力を入れている。
大学病院や他の大病院のような難しい症例は少ないが、基本的な症例を数多く経験することができ、場数を踏むことで自分なりの課題や問題点を見出すことができると考えている。

１１：東京都立大久保病院　（以下、大久保病院）

研修実施責任者：山縣克之

専門研修指導医：鈴木健雄（麻酔）
芦刈英理（麻酔）
山縣克之（麻酔）

認定病院番号　701

特徴：

他科との連携がスムーズな中規模病院のメリットを活かした研修が行えます。

当院は特に腎医療に力をいれており、多くの腎不全患者の麻酔を経験できます。なかでも、生体腎移植術は2件/月まで実施できる体制が整えられており、その麻酔管理に携わることも可能です。

大きな手術はそれほど数多くはありませんが、重症合併症患者の麻酔のみならず、手術室外での麻酔や口腔外科手術の鎮静などの症例も豊富であるため、様々な経験を積むことができます。

１２：順天堂大学医学部附属順天堂医院（以下，順天堂医院）

研修実施責任者：川越いづみ

専門研修指導医：川越いづみ（呼吸器外科麻酔・区域麻酔）
石川晴士（胸部外科麻酔・術前外来）
赤澤年正（麻酔全般・心臓血管外科麻酔）
長島道生（集中治療）
竹内和世（麻酔全般・小児麻酔）
工藤　治（麻酔全般）
岩田志保子（麻酔全般・心臓血管外科麻酔）
掛水真帆（麻酔全般・心臓血管外科麻酔）
尾堂公彦（麻酔全般・心臓血管外科麻酔）
河邉千佳（麻酔全般・小児麻酔）
安藤　望（麻酔全般・小児麻酔）
阿部まり子（麻酔全般・小児麻酔）
福田征孝（麻酔全般）
豊田有加里（麻酔全般）
櫻谷初奈（麻酔全般）
林　愛　（麻酔全般）

藤野隆史（麻酔全般）
岡田尚子（麻酔全般・産科麻酔）
須賀芳文（麻酔全般・産科麻酔）
門倉ゆみ子（麻酔全般・産科麻酔）
千葉聡子（ペインクリニック）
山田恵子（ペインクリニック）
原　厚子（ペインクリニック）
濱岡早枝子（ペインクリニック）
武田泰子（ペインクリニック）
太田　浄（ペインクリニック）
林田眞和（心臓血管外科麻酔）
西村欣也（小児麻酔）
井関雅子（ペインクリニック、緩和ケア）
三高千惠子（集中治療）
近江禎子（麻酔全般・産科麻酔）

専門医：稲田美香子（麻酔全般）
山口　愛（麻酔全般）
草野有佳里（麻酔全般）
池田麻里絵（麻酔全般）
伊東由圭（麻酔全般）
宇田川梨子（麻酔全般）
桃井千恵（麻酔全般）
岩佐　美（麻酔全般）
米本周平（麻酔全般）
森　悠子（麻酔全般）
多賀慶子（麻酔全般）
室谷修平（麻酔全般）
廣瀬友基（麻酔全般）
箕浦真奈美（麻酔全般・産科麻酔）

麻酔科認定病院番号　12

特徴：各診療科の手術数が多く最先端医療の導入にも積極的であるため、豊富な麻酔症例を経験でき、各サブスペシャリティーの指導陣も充実している。ペインクリニック、緩和ケア、集中治療、産科麻酔の長期・短期のローテーションも可

能である。多職種で構成される包括的な術前外来も整備され、麻酔安全面へ大きく寄与している。

１３．順天堂大学医学部附属浦安病院　（以下、順天堂浦安病院）

研修実施責任者：髙橋伸二

専門研修指導医：

髙橋　伸二	（麻酔、集中治療、ペインクリニック）
神山　洋一郎	（麻酔、集中治療、ペインクリニック）
大和田　哲郎	（麻酔、心臓麻酔）
保利　直助	（麻酔）
平本　芳行	（麻酔、集中治療、救急医学）
小松　茜	（麻酔）
須賀　芳文	（麻酔、産科麻酔）

麻酔専門医：

竹田　くるみ	（麻酔）

麻酔科認定病院番号：342

特徴：手術麻酔全般のほか、ペインクリニック、無痛分娩、をローテーションなく研修可能である。特に、産科、小児外科の症例が多い。初期研修医レジデントと共にレジデントレクチャー、シミュレーショントレーニングがうけられる。

１４．順天堂大学医学部附属静岡病院　（以下、順天堂静岡病院）

研修実施責任者：尾前 毅

専門研修指導医：

尾前 毅	（心臓血管麻酔）
洪 景都	（麻酔一般，ペインクリニック）
櫻庭 園子	（麻酔一般、区域麻酔）
山﨑　翔	（麻酔一般）
八子　一	（麻酔一般）

専　　門　　医：上田　恩来　　（麻酔一般）

(社)日本麻酔科学会　認定病院番号　422

特徴：静岡県東部で 3 次救急を担う救急救命センター、総合周産期母子医療センター、新生児センター、脳卒中センター、がん治療センターを持つ地域の高度医療を

担う中核病院です。また、静岡県東部ドクターヘリ運航拠点病院であり、周産期救急症例を含む多彩な緊急手術症例が豊富です。

１５：越谷市立病院　以下，越谷病院）

研修実施責任者：林 健児

専門研修指導医：林 健児（麻酔、ペインクリニック）

専門医　　：柴崎 朋（麻酔）

認定病院223

特徴：産婦人科、整形外科の症例が多い。脊椎麻酔のトレーニングが多くできる。

１６：松戸市立総合医療センター・小児医療センター

研修プログラム統括責任者：北村　祐司

専門研修指導医：北村　祐司（麻酔全般・小児麻酔・心臓麻酔）
栃木　知子（麻酔全般・小児麻酔）
國分　宙（麻酔全般・心臓麻酔・小児麻酔）
原　貴子（麻酔全般・小児麻酔・心臓麻酔）
渡邉　毅士（麻酔全般）
アレン　絵里沙（麻酔全般）

認定病院番号:195

【特徴】千葉県東葛北部地域の基幹型臨床研修病院であり,3次救命救急センター,小児医療センター,周産期母子医療センター,地域がん診療連携拠点病院指定,地域医療支援病院指定など,幅広い機能を持つ地域の中核病院である．3次救命救急センターでは,県内はもちろん県外からの救急患者も多数受け入れており,ECMO配備数は県内最大レベルを誇る．2020年にJACHRI（日本小児総合医療施設協議会）認定を受けた小児医療センターは県内でも希少なPICUを備え,2025年4月には小児救命救急センターの指定も受けた．NICUの体制充実に伴い新生児の手術症例が近年増加している．麻酔科は2021年に小児麻酔科を設置,2022年に心臓血管麻酔専門医研修施設認定を取得し,小児麻酔・心臓血管麻酔の管理体制の更なる充実も図っている（専門研修指導医のうち小児麻酔認定医4名、心臓血管麻酔専門医3名）．市中病院としては麻酔管理症例の種類が豊富で,新生児・乳幼児を含む小児から高齢者まで,特殊手術麻酔を含めて専門研修に必要とされる麻酔はすべて研修することができる．麻酔科は全診療科の手術麻酔を積極的に管理している他,小児の心臓カテー

テル検査麻酔（全例）に加えて小児の検査鎮静にも管理の適応を拡大している.2025年度の全手術件数約5,000件のうち麻酔科管理数は3,782件（前年比＋10%）.

専門研修に必要とされる特殊手術麻酔（2025年度実績件数）と特徴
・小児（6歳未満）の麻酔　(397件)：乳幼児症例が特に豊富.小児外科,形成外科,耳鼻科,小児脳外科,小児心臓外科,整形外科,小児循環器科.手術室外鎮静あり.
・帝王切開術の麻酔（463件）：予定・緊急ともに症例数が非常に多い
・心臓血管外科の麻酔（61件）：成人および小児の心臓・大血管手術（血管内治療を含む）,小児心臓カテーテル検査は全例麻酔科管理
・胸部外科手術の麻酔（70件）：2022年度より新体制
・脳神経外科手術の麻酔（55件）　：小児脳外科症例が特に多い,頭部外傷を含む

１７：イムス葛飾ハートセンター

研修実施責任者：立石　紘子　（麻酔，心臓麻酔、集中治療）

専門研修指導医：立石　紘子　（麻酔、心臓麻酔、集中治療）

鈴木　真弓　（麻酔、心臓麻酔）

河内山　宰　（麻酔，心臓麻酔、集中治療）

認定病院番号:1432

特徴：年間約330件のOPCABおよび弁疾患等の開心術、腹部大動脈瘤や胸部大動脈瘤などの大血管手術症例(ステント治療も含む)を合わせて年間約500件以上の全身麻酔管理を行なっている日本麻酔科学会認定施設および心臓血管麻酔専門医認定施設になっている。心臓麻酔のスペシャリストとして予定・緊急を含め、安全かつ円滑に手術が出来る体制を確立しており、他部署とのチームワークを重視し、迅速かつ質の高い医療を提供している。

5. 専攻医の採用と問い合わせ先

① 採用方法

専攻医に応募する者は，日本専門医機構に定められた方法により，期限までに（2024年９月頃を予定）志望の研修プログラムに応募する．

② 問い合わせ先

本研修プログラムへの問い合わせは，東京都立墨東病院ホームページ，東京都医師アカデミーホームページ、電話，e-mail，郵送のいずれの方法でも可能である．

東京都立墨東病院 麻酔科　後藤尚也
〒130－8575　東京都墨田区江東橋4-23-15
TEL　03-3633-6151
E-mail arslongavitabrevis1991@gmail.com
Websit https://bokutoh-career.jp/resident/senior
https://www.tmhp.jp/kikou/academy/

6. 麻酔科医資格取得のために研修中に修めるべき知識・技能・態度について

① 専門研修で得られる成果（アウトカム）

麻酔科領域の専門医を目指す専攻医は，4年間の専門研修を修了することで，安全で質の高い周術期医療およびその関連分野の診療を実践し，国民の健康と福祉の増進に寄与することができるようになる．具体的には，専攻医は専門研修を通じて下記の4つの資質を修得した医師となる．

１）十分な麻酔科領域，および麻酔科関連領域の専門知識と技能
２）刻々と変わる臨床現場における，適切な臨床的判断能力，問題解決能力
３）医の倫理に配慮し，診療を行う上での適切な態度，習慣
４）常に進歩する医療・医学に則して，生涯を通じて研鑽を継続する向上心

② 麻酔科専門研修の到達目標

国民に安全な周術期医療を提供できる能力を十分に備えるために，研修期間中に別途資料**「麻酔科専攻医研修マニュアル」**に定められた専門知識，専門技能，学問的姿勢，医師としての倫理性と社会性に関する到達目標を達成する．

③ 麻酔科専門研修の経験目標

研修期間中に専門医としての十分な知識，技能，態度を備えるために，別途資料**「麻酔科専攻医研修マニュアル」**に定められた経験すべき疾患・病態，経験すべき診療・検査，経験すべき麻酔症例，学術活動の経験目標を達成する．

このうちの経験症例に関して，原則として研修プログラム外の施設での経験症例は算定できないが，地域医療の維持など特別の目的がある場合に限り，研修プログラム管理委員会が認めた認定病院において卒後臨床研修期間に経験した症例のうち，専門研修指導医が指導した症例に限っては，専門研修の経験症例数として数えることができる．

7. 専門研修方法

別途資料「**麻酔科専攻医研修マニュアル**」に定められた１）臨床現場での学習，２）臨床現場を離れた学習，３）自己学習により，専門医としてふさわしい水準の知識，技能，態度を修得する．

8. 専門研修中の年次毎の知識・技能・態度の修練プロセス

専攻医は研修カリキュラムに沿って，下記のように専門研修の年次毎の知識・技能・態度の到達目標を達成する．

専門研修１年目

手術麻酔に必要な基本的な手技と専門知識を修得し，ASA１～２度の患者の通常の定時手術に対して，指導医の指導の元，安全に周術期管理を行うことができる．

専門研修２年目

１年目で修得した技能，知識をさらに発展させ，全身状態の悪いASA３度の患者の周術期管理やASA１～２度の緊急手術の周術期管理を，指導医の指導のもと，安全に行うことができる．小児手術などを経験し，周術期管理を指導医のもと，安全に行うことができる．

専門研修３年目

心臓外科手術，胸部外科手術，脳神経外科手術，帝王切開手術，小児手術などを経験し，さまざまな特殊症例の周術期管理を指導医のもと，安全に行うことができる．また，ペインクリニック，集中治療，救急医療など関連領域の臨床に携わり，知識・技能を修得する．

専門研修４年目

3 年目の経験をさらに発展させ，さまざまな症例の周術期管理を安全に行うことができる．基本的にトラブルのない症例は一人で周術期管理ができるが，難易度の高い症例，緊急時などは適切に上級医をコールして，患者の安全を守ることができる．

9. 専門研修の評価（自己評価と他者評価）

① 形成的評価

- 研修実績記録 : 専攻医は毎研修年次末に，専攻医研修実績記録フォーマットを用いて自らの研修実績を記録する. 研修実績記録は各施設の専門研修指導医に渡される．
- 専門研修指導医による評価とフィードバック : 研修実績記録に基づき，専門研修指導医は各専攻医の年次ごとの知識・技能・適切な態度の修得状況を形成的評価し，研修実績および到達度評価表，指導記録フォーマットによるフィードバックを行う．研修プログラム管理委員会は，各施設における全専攻医の評価を年次ごとに集計し，専攻医の次年次以降の研修内容に反映させる．

② 総括的評価

研修プログラム管理委員会において，専門研修４年次の最終月に，専攻医研修実績フォーマット，研修実績および到達度評価表，指導記録フォーマットをもとに，研修カリキュラムに示されている評価項目と評価基準に基づいて，各専攻医が専門医にふさわしい①専門知識，②専門技能，③医師として備えるべき学問的姿勢，倫理性，社会性，適性等を修得したかを総合的に評価し，専門研修プログラムを修了するのに相応しい水準に達しているかを判定する．

10. 専門研修プログラムの修了要件

各専攻医が研修カリキュラムに定めた到達目標，経験すべき症例数を達成し，知識，技能，態度が専門医にふさわしい水準にあるかどうかが修了要件である．各施設の研修実施責任者が集まる研修プログラム管理委員会において，研修期間中に行われた形成的評価，総括的評価を元に修了判定が行われる．

11. 専攻医による専門研修指導医および研修プログラムに対する評価

専攻医は，毎年次末に専門研修指導医および研修プログラムに対する評価を行い，研修プログラム管理委員会に提出する．評価を行ったことで，専攻医が不利益を被らないように，研修プログラム統括責任者は，専攻医個人を特定できないような配慮を行う義務がある．

研修プログラム統括管理者は，この評価に基づいて，すべての所属する専攻医に対する適切な研修を担保するために，自律的に研修プログラムの改善を行う義務を有する．

12. 専門研修の休止・中断，研修プログラムの移動

① 専門研修の休止

- 専攻医本人の申し出に基づき，研修プログラム管理委員会が判断を行う．
- 出産あるいは疾病などに伴う６ヶ月以内の休止は1回までは研修期間に含まれる．
- 妊娠・出産・育児・介護・長期療養・留学・大学院進学など正当な理由がある場合は，連続して2年迄休止を認めることとする．休止期間は研修期間に含まれない．研修プログラムの休止回数に制限はなく，休止期間が連続して 2 年を越えていなければ，それまでの研修期間はすべて認められ，通算して4年の研修期間を満たせばプログラムを修了したものとみなす．
- 2年を越えて研修プログラムを休止した場合は，それまでの研修期間は認められない．ただし，地域枠コースを卒業し医師免許を取得した者については，卒後に課せられた義務を果たすために特例扱いとし2年以上の休止を認める．

② 専門研修の中断

- 専攻医が専門研修を中断する場合は，研修プログラム管理委員会を通じて日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会へ通知をする．
- 専門研修の中断については，専攻医が臨床研修を継続することが困難であると判断した場合，研修プログラム管理委員会から専攻医に対し専門研修の中断を勧告できる．

③研修プログラムの移動

- 専攻医は，やむを得ない場合，研修期間中に研修プログラムを移動することができる．その際は移動元，移動先双方の研修プログラム管理委員会を通じて，日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会の承認を得る必要がある．麻酔科領域研修委員会は移動をしても当該専攻医が到達目標の達成が見込まれる場合にのみ移動を認める．

13. 集合研修の実施

本プログラムでは、都立病院群が基幹施設となっている全領域の専門研修プログラムと合同で、集合研修を実施する。

1　災害医療研修（1年次）

・　災害医療の基礎概念を理解する。

・災害現場初期診療、救護所内診療、搬送等を想定して、実践的な訓練を行う。

・　災害現場での手技を修得する。

2　研究発表会（2 年次）

・臨床研修、研究成果を学会に準じてポスター展示と口演により発表する。

14. 地域医療への対応

本研修プログラムの連携施設には，地域医療の中核病院としての都立病院群、イムス葛飾ハートセンター、越谷市立病院など幅広い連携施設が入っている．医療資源の少ない地域においても、安全な手術の施行に際し、適切な知識と技量に裏付けられた麻酔診療の実施は必要不可欠であるため，専攻医は，大病院だけでなく，地域での中小規模の研修連携施設においても一定の期間は麻酔研修を行い，当該地域における麻酔診療のニーズを理解する．

15. 専攻医の就業環境の整備機能（労務管理）

研修期間中に常勤的非常勤職員として在籍する研修施設の就業規則に基づき就業することとなる．専攻医の就業環境に関して，各研修施設は労働基準法や医療法を順守することを原則とする．プログラム統括責任者および各施設の研修責任者は専攻医の適切な労働環境（設備，労働時間，当直回数，勤務条件，給与なども含む）の整備に努めるとともに、心身の健康維持に配慮する．

年次評価を行う際，専攻医および専門研修指導医は研修施設に対する評価（Evaluation）も行い，その内容を専門研修プログラム管理委員会に報告する． 就業環境に改善が必要であると判断した場合には、当該施設の施設長、研修責任者に文書で通達・指導する．